

財団法人 英語教育協議会

平成21年度（2009年度）事業報告

1. 事業の報告

1. 英語教育に関する研究

“Advisory Board”（委員長：小池生夫 慶応義塾大学・明海大学名誉教授、委員：和田稔 明海大学名誉教授、委員：金谷憲 東京学芸大学教授）を3回開催し、英語教育の現状、『英語展望』のテーマと執筆者、「ELEC英語教育研修会」の構成、テーマ、講師などについて助言をいただいた。『英語展望』ではCEFR(*)、小池科研を特集し日本の英語教育のあるべき姿を提示した。「ELEC情報・資料の収集および分析研究グループ」の研究成果は引き続き『英語展望』誌上で発表した。

*=Common European framework of Reference for Languages, Learning, teaching, assessmentの略

2. 英語教員に対する専門的な研修会の開催

(1) ELEC英語教育研修会(The ELEC Seminars for English Teachers)

文部科学省後援のもとに、各1日制の研修会をELEC英語研修所にて下記のとおり実施した。

夏期：7月27日～8月15日	受講者数：603名（前期486名）
冬期：12月25日～27日	受講者数：92名（前期89名）
春期：3月25日～31日	受講者数：183名（前期211名）
	合計878名（前期786名）

なお、昭和32年以来の受講者累計は15,550名となった。

(2) その他教育委員会主催 教員研修会支援事業

下記の教育委員会主催の教員研修会を委嘱され実施した。八王子市教育委員会の研修は2003年度より継続実施。

八王子市：1日間 3.5時間 1クラス 受講者数40名

3. 一般成人に対する英語講習会等の開催

(1) ELEC英語研修所(The ELEC Institute)

2009年度の受講者数は23パーセント前年度を下回り、継続率は約30%であった。

また、受講生は延173名の減（新規受講生は74名減）になった。教室の使用状況については、朝(午前)4%、昼(午後)20%、夜間に関しては45パーセントの稼働率と昨年比減少となった。

今年度の主たるポイントは以下の通りである。

1. 教務部のプログラム創出力の増強
(プライベート・レッスンへの対応力の強化)
2. 特化した内容へのプログラム作りの取り組み
(発音力アップ、基礎力増強等)
3. 英語サロンの実施
3回実施「Alohaなハワイ」、「俳句 in English」、「英語の発音をよくする方法」
10-35名来所

2009年度のコースは前年度と同様のコース設定にて開講した。日本人講師によるTOEIC指導講座をプライベートレッスンにて実施し、これを企業からの受託講座に発展してさらにTOEIC指導のための「講座力」のアップを推進している。

今期の開設コースは以下の通り

総合英会話コース：

- 午前部 週2日コース (月・水/火・木)
- 週1日コース (火/金/土)
- 午後部 週2日コース (月・水/火・木)
- 週1日コース (木 /金/土)
- 夜間部 週1日コース (月/ 火/ 水/木 / 金)

ビジネス英語コース

- 夜間部 ビジネス英語上級コース (火)
- ビジネス英語中級コース (金)

スキル・トピック別コース

- ムービー (金)
- リスニング (中級) (金)
- スタディ・スキル (土)

- ディスカッションコース (中・上級) (金)
- ディスカッションコース (上級) (金)

非学期制プライベート・レッスン：

2008年冬学期から開始した自由度の高いレッスンは好評を博した。学期制ではなく開始日及び終了日並びに回数及び日程変更回数等の自由度を高めたため年間延65名の受講者を得た。

- 1) 週1回 月、火、水、木、金の午前・午後 (1レッスン50分)
従来の学期制レッスン
- 2) 受講回数及び曜日・時間等を予め決めるレッスン (1レッスン45分)
非学期制 プライベートレッスン

本年度の研修所の延べ受講者数は以下の通りであった。

春 学 期	1 4 9 名
夏 学 期	1 5 4 名
秋 学 期	1 3 8 名
冬 学 期	1 2 8 名
合 計	5 6 9 名

(2)官公庁及び企業研修並びに大学受託講座

研修予算カットにより既存客からの継続受注の打ち切りが度重なる厳しい年度となった。新規受注に奔走したが開始決定までに時間が掛かる状況に多々直面した。新規顧客を獲得したが金額が小さいものに留まっている。

既存企業の継続的な研修獲得のためにBy-Emailコースによる企業内個人受講者に直接指導する添削形式のサービスを付けたところ好評で実際の研修復活の足がかりとなるケースがあった。

本年度の企業内研修は合計69講座であった。その内訳は32 (内新規企業等8) の官公庁及び企業での研修並びに8大学で実施した37の講座であった。加えて江東区文化センターでの英語講座は、7ヶ所にて合計44講座(前年度42講座)を運営した。

大学からの受託講座については、既存の講座では神奈川大学経済学部での受託講座増が9クラスと好調であり、学生のTOEICスコアが平均70点アップした。また、熊本大学東京サテライト校での受託講座は継続実施となり、スポットでは東京都立産業技術高等専門学校でのコミュニケー

ション科目を受託した。大学教育市場においては、実務的な英語運用能力及び大学教育としての基礎力の養成の両面が要求されていることを考慮したシラバス作りが求められている。

(3) 英文添削

本年度の英文添削サービスの利用件数は個人20名並びに法人2社であった。また、翻訳業務については依頼内容は論文の概略、中学/高校教材原稿及び企業が行う交渉のための手紙文並びにデータを添付しての実務交渉文の翻訳・添削がニーズとしてある。

4. 英語教育に関する資料の頒布

(1) 定期刊行物

- ・ 『英語展望』 (E L E C Bulletin) 第117号
特集『CEFRと日本の英語教育』
- ・ English Teaching FORUMの頒布 Vol. 47 Nos. 1, 2, 3, 4

(2) 録音教材

昨年同様、諸教育団体、各種学校、出版社等のための語学教材等の録音を行った。

5. 英語教育の研究に対する援助と助言

E L E C 賞

2009年度のE L E C賞は、厳正な審査の結果、A部門のみ1名が受賞された。

A部門 *Effects of Different Feedback on the Development of Writing Abilities among Japanese High School EFL Learners* (北海道函館中部高等学校 岩田哲)

B部門 該当なし

本E L E C賞の提供を通じて最新の現場教育の立場と教授法の理論的研究等を収集し、英語展望へ掲載することにより周知をはかった。また、「函館新聞」にもE L E C賞が掲載されE L E C賞及びE L E CのPRにつながった。

6. 語学教育研究諸機関との連絡協力

諸大学、言語教育研究諸機関との間に、刊行物の相互交換を行った。また、「日本外国語教育改善協議会」にE L E Cの職員を参加させ積極的に協力した。尚「日本外国語教育改善協議会」はELECほか主要英語教育研究団体及び高等学校ドイツ語教育研究会で構成され、外国語教育の現状に対する認識及び将来への展望に基づき改善策を講じ、アピールをまとめて行政機関に提言を行っている。

7. その他の事業

英語を実践する企業等の現場と英語を教育する現場との乖離の実態を明らかにして、ELECとしての実践的な提言を行なう。具体的には下記の活動を行なった。

- 小池理事の科研(平成16年～平成19年度科学研究費補助金研究)に基づく調査研究の成果を「英語展望」誌上にて発表した
- 英語サロンの実施
2009年7月 テーマ：「Alohaなハワイ」
講師：ハワイ州観光局他 参加者30名

2009年10月 テーマ：「俳句 in English」
講師：宮下 恵美子 参加者10名

2010年1月 テーマ：「英語の発音をよくする方法」
講師：奥村 真知 参加者35名
- ELEC賞授与式・特別講演会
2010年2月 テーマ：”地球語としての英語“をどう教えるか
講師：鳥飼玖美子 参加者50名